

# 被災地型自然学校の共創を核とした 持続可能な地域づくり

活動地域 熊本県

復興支援助成

3年目

実践

東無田おるげんと市場  
来場者数 **300人**

共同シンポジウム  
参加者数 **67人**

今年度計画の達成度 **80%**

目標達成度 **75%**



1/19開催の共同シンポジウムの様子

## 苦労した点と工夫した点

### ■ 苦労した点

3年目になると復興のために地域のニーズが多様化し、「宿泊」の視点やゲストハウスを前面に出したセミナーの集客に苦労した。参加者は鹿児島県からもあった。

### ■ 工夫した点

「東無田おるげんと市場」は、地域のルールを尊重し、女性有志とまちづくり協議会とともに実行委員会形式で開催した。チラシによる広報には、全戸配布の回覧板が利用できた。

## 課題

熊本地震で大規模な被害を被った益城町島田（東無田地区）は、家屋の7割が全半壊し更地となり、みなし仮設など地域外に人口が流失した。

## 目標

神社、広場（公園）など、地域の中心に人が集まる場の再興と、地域住民が自分の地域にある資源を再発見し、誇りをもつくみができる。

## 活動内容と成果

毎年開催してきた熊本地震復興セミナーのまとめとして、1/19に東京でシンポジウムを開催。テーマは「人が集まる場所をつくる一食食べる泊まる休む」。熊本地震の被災地のほか、東北から女性の視点で地域に小さな経済をつくる取組み、ゲストハウスによる地域づくりを実践している人などを講師に、被災地の復興を長く続けていくためのポイントなどを話し合った。復興マルシェは3年目に「東無田おるげんと市場」という名称で、地域住民主体で開催。地域の賑わいを生み出し、世代間や地域内外の交流を生み出すことを目指している。



境内で「東無田おるげんと市場」開催

## 全助成期間の活動を振り返って

1年目は数多くの復興イベント等が開催される中で、どのような着地ができるのか見当がつかなかったが、2年目以降は、自然学校のネットワークをいかしたのものや、地域から生まれた活動を応援することができた。また、地域内外をつなぐゲストハウスという新しい視点の紹介ができたことも、活動の一つの成果だといえる。緊急支援期以降も関わることができたのは助成があったからこそである。



神社の拝殿で信州こども山賊キャンプの報告会

〒116-0013  
東京都荒川区西日暮里5-38-5  
電話：03-5834-7977  
E-mail：rqdec@rq-center.jp  
HP：https://rq-center.jp



今後の  
展望

2020年3月に災害公営住宅が完成し、これまで仮設住宅で生活していた人たちの環境が変わる。新たに移動してきた住人も増えてきた。地震後4年目を迎え、日常生活に戻った人と新しい環境になった人をつなぐイベントが必要となる。地震後に生まれた団体や、消防団や老人会などの既存の地縁組織が協力していく新たなフェーズに移行するが、地域主体の小さなマルシェ「おるげんと市場」がその一助になれば幸いである。